

『近未来—日本の可能性』(第9回)』～朝鮮半島、東アジアの5年後と我が国の目覚め～

(世界情勢・国内情勢・戦国時代です。アメリカ合衆国がかなり壊れた。我が国はオリンピックをせねばならない。チャイナの冬季2022はどうなる?ウイグル人ジェノサイドを黙認するのか?)『コロナワクチン』。

2月19日国会質問によれば、万が一副作用で死ねば、医療機関の過失の有無にかかわらず4420万円。葬祭料として20万9千円が給付される。そこまでして、何が何でも国民の多数にワクチン接種し、オリンピックを開催するという決意で国家は動いている。バイデンはまだ一般教書演説をしていない。

アメリカ大統領。上院がトランプ『弾劾』の結論を出せば、大混乱の可能性あった。テキサス独立。トランプがテキサス及びいくつかの州の大統領になる可能性。テキサスと、アメリカ連邦政府が対立した場合、連邦軍はトランプに付く。テキサス州は、もともと、連邦政府と同格の、特別の州。これは極論で、ほとんど空想じみているが、アメリカの共和制が終わり、トランプがアメリカ合衆国初代「皇帝」に即位しても良い。「トランプ陛下」になる。そうすればアメリカはあと200年保てる。アメリカはローマ帝国の後継国家であろうから。しかしそうはならないだろう。そこまでのアイデアをトランプに説く人物はいないだろうから。以上はそうになったら日本は楽だと言う話。**トランプは2年後の中間選挙で復活**できるが、そうさせないように、民主党は表向き、トランプ路線をかなり引き継ぐだろう。(「自省録」とローマ)

森元首相は謝ってはいけなかった。よく読めばあれは身内女性についての発言とも読めるそれ以外の女性は褒めている。「愚妻」「愚女」「愚息」は差別発言か?何事も、左翼に対して、ほんの1ミリも謝罪してはいけない。日本語の奥ゆかしさを学べと説教できないといけない。日本語は我々一人一人が自信を持って支えねばならない。「武士に二言はない」

文部科学省はまた「従軍慰安婦」の記載のある教科書を検定で通した。この件、「つくる会」は本当に良くやっている。**文部科学省はじめ、左翼利権**とは、左翼路線をとれば出世できる仕組み。我が国のDSと左翼勢力。

ウイグル、香港、オリンピック、ワクチン、愛知トリエンナーレ、拉致問題、全部同根の問題で繋がっている。人間個人には重要な事に気づいて「改心」と言う事がある。日本国家も長き洗脳、催眠状態から目覚めて、「改心」したかのように見える時が近づいている。『日本の形』を精神においても整える。国境を画定することと連動する。人間世界においてはまず精神が動く。そして物質も動く。

通貨、貨幣について。世界資本主義は民間の中央銀行が政府にお金を貸す制度をいつまで続けるのか。これほど科学が発達し、生産性も上がっているのに、餓死者がいて、貧困もあるのはなぜか。誰もが矛盾を感じる。そこでマルクス主義がまた目を覚ます。そしてそれを**DS、(ディープステートは結局利権である。)**国際情報勢力、国際金融組織が裏で支える。益々貧富の差は広がる。よって、この問題は、経済で解決しようとするれば、余計悪化する可能性もある。この問題は、経済の原理の外、徳、哲学、宗教、倫理によって、解決が目指されなければならない。**財務省、麻生氏。とは何か。**

複雑に入り組んだ思想戦の中に全世界は在る。我が国の歴史と、道徳、哲学は圧倒的に優位であると思う。

チャイナより先にアメリカが壊れると困るが、可能性はある。英国が復活してくれるのはありがたい。日英同盟は必ず復活するだろう。英国がなければアメリカも、日本も持たない。しかもこの英国が逆にDSの拠点でもある。英米は結局DSの拠点だから、それをやめない限り、最後は我が国の原理と対立する。**トランプ頑張れ!**

* (復習) 我々は過去のどこに最も重要なわが国歴史の転換点を見て、そこから未来を構築するべきか。 → 昨年2020年12月21日、冬至。**木星と土星が400年ぶりに大接近。**地球からほぼ重なって見える現象が起きた。10年前を思い出させるかなり大きな地震がまた先日、同じ地域であった。

400年単位の大転換期が来ている。大東亜戦争後、あるいは明治維新前後に主たる歴史認識を向ける習慣は終わる。「そもそも鎖国がなかったら」と、もっと遡る必要あり。400年前は1620年。関が原は1600年。1603年家康が征夷大将軍となり、徳川幕府が始まった。家康が没するのは1616年。この間、家康が大海軍を派遣してオランダに味方し、スペインの艦隊を駆逐した事実が、オランダの公文書館から発見された。(NHKスペシャル)初幕府は実質オランダと軍事同盟を結んでいた。鎖国しなければ、そのまま日英同盟までの発展もありえた。アメリカ合衆国はあったとしても東部だけであり、明治維新も、大東亜戦争も必要なかった。世界を日英の勢力が二分した事はほぼ間違いが無い。その後、我が国はどの様な『近代』を構築したであろうか。**これからは、我が国がその事を考えておかねばならない時代になる。これが南木の基本認識。**我々は400年

前にワープしても、すぐにそのままその時代を生きる事ができる。『足ガール』と言う番組もあった。日本人は、本質的に何も変わっていない。アメリカ崩壊後、我が国に世界の運命を担う責任が回ってきたとき、以上の事は本気で考えておくべき事柄であるが、誰も考えていない。最後に「徳川家康」になる国は？。

* チャイナ共産党崩壊 → アメリカの内紛と分裂 → 第2次日英同盟 (英国は香港を取り返す)。すべては連動している。ドイツ、フランスまで海軍を西太平洋に派遣し始めた。

* 『鬼滅の刃』日本は大丈夫。日本が大丈夫なら世界は大丈夫。日本がどうなるかは、大阪・岸和田にかかっている。我が国の政治は本当にこの重大事に腐っている。今度は菅首相の息子のスキャンダルか。日米とも中央がガタガタ。しかし戦国時代だから仕方がない。全世界中央政府は皆ガタガタになる。ヘトヘト、ポロポロになるまで戦い抜いて生き残ったものが天下を取る。

* いわゆる『大阪都構想』は大阪市民に2度否定され、「維新の会」はかなり求心力を失った。大阪の2重行政を解消する南木案は、大阪市を残したまま、大阪府知事が、大阪市長を兼任する南木案を採用せよ。

* 縄文人は偉かったのだ。我が国の根本精神は縄文1万年以上の「平和共存思想」を基底に持つ。

* アメリカの『因果応報』はこれから。地霊。カリフォルニア。多言語。「銃、病原菌、鉄」。アメリカは将来どういう地域になるか。以下は追加で、基本に持つべき認識。

① 宇宙ステーションの意味。ロシアの特権の消滅。

② 第7艦隊の「核シェアリング」をバイデン政権でも求めるべき。日本の「核シェアリング」がNATOと同じ方式になるという前提は取り払うべき。「非核3原則」のまま核シェアリングを実現できる。

③ チャイナ共産党消滅後の「国連」。「中華人民共和国」の後継国家を絶対に認めてはならない。ウクライナが「うちも後継国家だ」と主張したら世界史は変わっていた。チャイナから後継国家は出さない。日本が常任理事国にならねばならない。

④ 合衆国弱体化の後、我が国による第7艦隊買い取りは必至。「いずも」、「かが」空母化の意味。

⑤ アメリカの押さえを振り払えば(韓国の反日はもともとアメリカの策略) 解決という簡単な未来はなくなった。チャイナの台頭によって西側先進国グループの絶対的な優位性もなくなった。一つ間違えば、日本も失敗し、世界はアラブが優位性を持つ可能性もある。アラビア数字(アラブ首長国連邦が宇宙に乗り出している。)行き過ぎたポリコレが、イスラム圏には今のところない。これがイスラムの優位性だ。我が国もこのあたりで踏み留まらないといけない。女性の社会進出は、イスラム圏も母数に入れているのか。一夫多妻はどうか。渋沢栄一が1万円札になるが、「フェミニスト」の皆さんはこれはいいいのか。

(ご参考) 南木が関係している裁判

「ブルーリボン訴訟 大阪地裁」1/27(水).0。感謝。次回は4月14日。開廷14時。

恐らく13時くらいから傍聴券抽選。今度はたくさん来られるのでは。(本館8階810号)

「フジ住宅裁判 控訴審大阪高裁」4/20(火)第2回期日14時から大阪高等裁判所

『愛知トリエンナーレの天皇陛下へのヘイトを許さない会』による裁判、近く南木の仲間が提訴予定。高須さんたちとの連動ではない。

(推薦する書籍)「命がけの証言」(WAC) 清水ともみ + 楊海英

「中国の電撃侵略」(産経) 門田隆将×石平 「論語と算盤」(ちくま書房) 渋沢栄一

「世界のニュースを日本人は何も知らない」①②(ワニブックス) 谷本真由美

「空の神兵と呼ばれた男たち」(ハート出版) 奥本 實「3年後に世界が中国を破滅させる」(ビジネス社) 島田洋一

「天皇の国史」竹田恒泰(PHP)「台湾を知ると世界が見える」(DIRECT) 藤井厳喜・林 建良

「国際ニュースの読み方」(馬淵睦夫) マガジンハウス 「我、国連でかく戦えり」(ワニ・プラス) 藤木俊一

「英国諜報員 アシェンデン」(新潮文庫) サマセット・モーム 「自省録」(岩波) マルクス・アウレリウス

「習近平が隠蔽したコロナの正体」河添恵子(WAC) 「石平の眼 日本の風景と美」石平(WAC)

「逝きし世の面影」(平凡社) 渡辺京二 「銃、病原菌、鉄」。(草思社文庫) ジャレド・ダイヤモンド

「日本書紀入門」(ビジネス社) 竹田恒泰×久野潤 Hanada 1月号 Hanada セクション「大村知事リコール」

「中国解体2021」(徳間書店) 宮崎正弘 「知っておきたい和食の秘密」(勉誠出版) 渡辺望

(南木が繰り返し推薦する名著)

「隠れていた宇宙 下」(早川書房) ブライアン・グリーン 「ツキの大原則」(現代書林) 西田文郎 以上